順慶寺だより

印刷・発行　順慶寺
2023年（令和５年）
10月号
VOL.360

祠堂法要でご法話される伊奈祐諦先生（9月12日、順慶寺本堂にて）

◆◇ 阿弥陀様の御前にて ◇◆

本堂で御法話をいただくこと。これは、古来より阿弥陀様の御前で、布教使の先生がご自身のご領解をお聞かせ頂くことである。今年の祠堂法要の伊奈先生は、心からの笑みが溢れ、阿弥陀様に導かれて生きることの深い慶びをお聞かせいただく、正に勝縁であった。

今月の釈尊の言葉

外面に気をとられると正しい道を進むことは難しい

◆ダンマパダ（法句経）第二五四偈より

釈尊涅槃の直前、スバッダという行者が釈尊を訪ねて、三つの問いの答えを求めた場面の一コマです。

◇外面を繕う人に道はない◇

今月の釈尊の言葉は、ダンマパダより、

「外面的なことを気にかける人には、
真に努める人はいない。
世間の人々は、汚れの中に喜びを見出すが、
修行を完成した人は、汚れを喜ばない。」

（第二五四偈）

からの出典です。

今月は、釈尊が亡くなる前の最期の説法の一節です。

釈尊は、亡くなる少し前、パーヴァー村に立ち寄り、クシナガラに住む鍛冶屋の①チュンダからキノコ粥の供養を受けました。しかし、キノコ粥を口にされた途端、激しい腹痛となり供養された食事を食べることができませんでした。

その後、釈尊は弟子たちとも、旅に出て行かれましたが、途中、激痛でついに倒れ、最期の床につかれました。そのとき、心配してついてきたチュンダには、成道の前に供養されたスジャータの供養と同様、あなたから素晴らしい供養を受けたと、慰めの言葉を与えられました。

そして、やがて釈尊は最期の時を迎えられますが、その間際に、各地を巡礼し年老いた行者、②スバッダが訪ねてきました。近くにいたアーナンダは、スバッタに引き取るように伝えますが、かまわず釈尊はスバッダを招き入れました。その時、スバッダが長らく疑問を抱いていた、

「虚空に道はあるか、ブッダの教えの外に道はあるか、人間存在の要素は永遠か」

という三つの問いに対し、釈尊は、

「虚空に道はない。外面を繕う人に道はなく、ブッダの教えの外に修行者はいない。存在は永遠でなく、ブッダたちには動揺はない」

若院のテーマカット　NO.53

とお答えになり、まもなく静かにお亡くなりになられました。

◇こころから感謝する気持ち◇

今年の刈谷市仏教会の仏教講演会の中で、講師の牧野篤先生は、

「小学校ぐらいの時代から、大人たちと一緒になってボランティア活動をやってる子たちは、将来的に人のために何かしたいと思うようになる傾向が強まることがわかってる」

と話しておられました。

私たちは、子供のころから、親から人に頂き物をしたときは、仏さまにお供えをしてから頂きなさいと教えられて育ってきました。頂き物を下さった方のお心に誠心誠意感謝するために、仏さまに一回お返しして、オサガリとしていただき直します。

こうして、手を合わせ感謝する心を、仏さまから回向（えこう）していただいたわけです。仏さまの回向に育てられた子供は、やがて人々に感謝の心を与えられるようになるのではないでしょうか。

自分の体裁を良くするために、人に物を持って行っても、それは、名聞（みょうもん）（自分の聞こえを良くしたい）・利養（りよう）（財を増やし私腹を肥やしたい）・勝他（しょうた）（人に負けたくない）の心がどこかに含まれていて、それを受けとった人には、その毒々しさが先に伝わり、なかなか感謝の心が伝わりません。

「ものをだにもおおくまいらせば、わがちからかなわずとも、坊主のちからにてたすかるべきようにおもえり。これもあやまりなり。」

（『御文』一帖目第十一通）

誠心誠意とは、外面を整えることではなく、こころから感謝する気持ちを与えることであったと頷けます。

①【チュンダ】

漢字では、純陀とも書く。クシナガラの鍛冶屋の子。釈尊最期の布施者となった。幼いころに両親を亡くし、苦労して鍛冶屋を営み、果樹園を所有するまでになったところに、釈尊が休まれていることを知り、一行を自宅に招待し、食事を供養した。純陀が差し出した料理は、キノコを使った料理とも、豚肉を使った料理とも言われ判然としない。

②【スバッダ】

クシナガラのバラモン出身で、遍歴行者。四ヴェーダに通じていた。最後の布教の旅でクシナガラに来訪した仏と会い、自身が疑問とするところを三点にまとめ釈迦仏に質問した。時に彼は百二十歳であったと伝えられる。そして疑問が解消されて釈迦仏の弟子となった。その後、他の仏弟子への配慮から教団を離れ、一人で道を求め阿羅漢に達した。

10月は学校では衣替えです。お寺さんの衣は、衣替えって有るのでしょうか。

このごろは、夏が長いので、学校でも冬服に衣替えするのは少し早いと思う日もありますね。

お坊さんの衣は、下着のような襦袢があって、その上に白衣、その上に法衣と袈裟を着ます。どんな季節も、この枚数を重ね着しますから、夏などのはとても暑いです。

今ほど暑くなかった古い時代でも、勿論クーラーなんかはありませんから、夏になると暑くて大変になりました。そのために、夏の場合は、透けてみえるような紗（しゃ）と言われる衣が作られました。しかし、紗は、着ている人は風が通れば結構涼しくなりますが、見る人は、透けて見える着物に嫌な思いをされる場合もあります。ですから、夏の場合でも、紗の着物は正装とはなりません。

その他に、夏物の衣にはもう少し目を詰めて、定期的に隙間を作った、絽（ろ）という着物があります。これは、紗よりも風通しは悪いですが、見た目の隙間は小さくなります。ですから、真夏でも、正式な場所では絽の衣をつけることになっています。

そのかわり、冬場は、分厚い衣をつけることもできますし、二枚重ねの衣をつけることもできます。その点、お寺さんの衣は、冬向きの着物だといえるのかも知れませんね。

若院の成長日記 Growth Diary

《第四二回　御一代記聞書》

先日、ある先生が住職としての生き方に迷ったら「聞書」を読め、と教えて下さいました。

「聞書」とは蓮如上人が様々な人とのやり取りを記録した語録集です。

実際、聞書は耳に残る言葉が多く、難しい言葉を使っているわけでもないので頭に入ってきやすいと思います。

今までは掻い摘んで読む程度でしたが、これを機にしっかりと読もうと思った次第です。

お寺とともに　三十年

早いもので、「順慶寺だより」も今月で発刊三十年を迎えます。

自分がお寺にお嫁に来た当時は三年目位で編集作業もまだまだ発展途上。毎月の締め切りに向け試行錯誤の連続で大変な時でした。

その間には三人の子育てやお寺の修復工事など様々な事が同時進行した訳ですが、住職にとっては「順慶寺だより」こそが自分が産み育てた子供のようなもの。法務の忙しさやパソコンのトラブルなどでつい、「今月はお休みにしたら…」と声をかけても諦めず休まずに今日まで歩んできました。

その間、編集作業でお世話になった今は亡き方々のお姿や、住職と共に「順慶寺だより」をお育てくださったご門徒の皆様に感謝申し上げながら、今秋より三十一年目に突入します。

今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和五年度 祠堂法要・倶会一処式

午前午後の通常日程で開催される

コロナ禍の令和2年から自粛されてきた、大法要の一日コース。ようやく、さる9月12日の祠堂法要・倶会一処式から一日の日程で実施されました。

令和2年に始まったコロナ禍により、各方面で大幅な自粛を余儀なくされました。順慶寺においても、報恩講、蓮師会、祠堂法要の三大法要は、午前午後の法要を半日とし、お斎は持ち帰り弁当としていました。

また、参詣者の皆さんにも、ソーシャルディスタンスをお願いし、本堂内の入堂者を三十五人までに制限し、書院や庫裏にリモート席を設け、参詣の際には、マスクの着用、アルコール消毒と検温をお願いしていました。

今回の祠堂法要・倶会一処式では、こうした規制をマスクの着用、アルコール消毒は自主判断とし、その他の規制はすべて撤廃して、令和元年以前の形にもどすことになりました。

本堂に満堂の参詣者

法要には、コロナ以前の参詣者には及ばないものの、前回に増して大勢の参詣があり、本堂に百席設けたイス席は満杯になりました。

お斎は、お勝手会の皆さんがこころを込めて準備して下さった、松花堂弁当を庫裏全体に準備しましたが、一回転では入りきれない状態。皆さん、久しぶりのお斎に、美味しかったの声が沢山聞かれました。

法話は、奥様を亡くされたばかりの伊奈祐諦先生。亡き人をおくる辛さを二河白道を喩えに出されお話下さいました。阿弥陀様に呼びかけられている我が身の有り難さを、いっそう深く感じました。

午後からの倶会一処式では、本年五十回忌を迎えられた身内の皆さんが集われ、埋骨をされるお骨を手にして、悲しみによりそう仏教の本質を深く味わっていかれました。

特別懇志　御仏供米30kg・塚本敬様、参詣者粗志・杉浦太鼓店様、参詣者粗志・鈴木久美様　他

祠堂法要・倶会一処式点描

Photo by 岡川経康氏

倶会一処のお骨を手渡された責任役員・相木氏

通常開催された祠堂法要には、何事も無かったように、いつもの活気とにぎわいがもどっていました。

書院でのお茶接待を再開

お勝手会の皆さん

お斎の松花堂弁当

お斎は庫裏一杯の人

9月度護寺会物故者

見歓院釋尼豊永
9月1日寂　杉浦豊子（85）
西丘組　杉浦秀男様の母

釋尼行英
9月11日寂　塚本英子（89）
今川西組　塚本良司様の義母

令和5年度 順慶寺公開講座

主催：順慶寺護寺会・教化委員会

薄井秀夫氏　㈱寺院デザイン代表取締役

1966年群馬県生まれ。東北大学文学部卒業（宗教学専攻）。中外日報社、鎌倉新書を経て、2007年、寺の運営コンサルティング会社「寺院デザイン」を設立。朝日新聞「論座」執筆委員。著書に『葬祭業界で働く』（共著、ぺりかん社）、『10年後のお寺をデザインする - 寺院仏教のススメ』（鎌倉新書）、『人の集まるお寺のつくり方 - 家の帰属意識をどう高めるか、新しい人々をどう惹きつけるか』（鎌倉新書）など。

日にち　令和5年10月15日（日）
時間　午後2時から4時
会場　順慶寺本堂
講師　㈱寺院デザイン代表取締役　薄井秀夫（うすいひでお）氏
講題　「仏教の底力」
参加費　無料

編集部短信

◆**惣骨塔の拡張決定**＝さる8月29日、墓地管理委員会を開催。惣骨等の銘板をはめる部分が近々に満杯になることから、銘板をはめる部分を拡張することに決した。

◆**本堂スロープを調査**＝さる9月8日、亀山建設の棟梁による本堂スロープの傷み具合の調査がなされた。本堂のスロープは、近年使用頻度が増し、スロープ面の木目に節が多く露出してきて、足がひっかかるとの指摘があった。棟梁の話では、木材の劣化によるもので、木材を無節の材料に交換する必要性があるとされた。

◆**寺報創刊三十周年**＝寺報が平成五年創刊以来毎月28日に出版し、今月号で三十周年三六〇号を迎えた。

編集雑記

寺報が三十周年を迎えました。寺報は、前住職による門前の掲示の言葉の解説をしようと、若院として寺に入った事始めに開始したものでした。うち、二十年は、老院の言葉が基軸で寺報を作っていく形でしたが、十年前には老院が寺報を引退。住職の片手間での寺報製作は睡眠時間を減らす作業でしたが、今や製作に若院が加わり、老院の思いを伝える役割となりました。（住）

……

今年の秋は何だか蚊がよく飛んでいますね。夏が暑すぎて卵から孵化するのが遅れ、少し涼しくなったこの時期に、蚊が集中しているようです。夏の猛暑の割を食ったのは自分たちだけではないなぁと思います。（若）

編集・発行人　池浦裕哉
印刷・発行所　順慶寺内
真宗大谷派順慶寺　郵便番号　四四八―〇〇〇四
愛知県刈谷市泉田町池之浦三
連絡　電話　〇五六六(二二)一九三四
FAX〇五六六(二二)五六一三　郵送　郵送料毎月百円(年間千二百円)
振替〇〇八三〇―〇―一六二六九
会員　護寺会員には五百円にて一年間郵送をいたします。
インターネット　URL：http://www.junkyoji.com/
E-MAIL：support@junkyoji.com

順慶寺

10月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	日	(有志)寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	
2	月	おたのしみ会(14:00、順慶寺本堂)	
3	火		
4	水		
5	木		木－1
6	金		
7	土		
8	日		
9	月		
10	火		
11	水		
12	木		木－2
13	金		
14	土		
15	日	順慶寺公開講座(14:00、順慶寺本堂)	
16	月		
17	火		
18	水		
19	木		木－3
20	金		
21	土	順慶寺子ども会(9:00、順慶寺本堂)	
22	日	助音講(16:00、順慶寺玄関)	
23	月		
24	火		
25	水		
26	木		木－4
27	金		
28	土	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
29	日		
30	月	順慶寺親睦バス旅行(総代OB会主催)	
31	火	報恩講事前連絡会(19:00、順慶寺玄関)	

10月行事内容 詳細

順慶寺公開講座

10月15日(日)
午後2時～　順慶寺本堂
講師　寺院デザイン取締役　薄井秀夫氏

毎年、真宗講座の特別講演として、著名な先生をお呼びして、十月に公開講座を開催しています。今年は、現代のお寺のあり方や人の集まるお寺、葬式仏教に対する話題など様々に著作のある、寺院デザイン取締役の薄井秀夫先生（朝日新聞論座解説委員）に講師に来ていただき、「仏教の底力」というテーマでお話していただきます。参加費は無料です。

順慶寺親睦バス旅行

10月30日(月)

順慶寺の総代OB会主催で、バス旅行が企画されました。順慶寺では、コロナ禍で、三年以上バス旅行が企画されなかったため、久しぶりのバス旅行。目的地は、浜名湖湖北五山の寺・龍潭寺、どうする家康ドラマ館などです。浜名湖では、昼食にオプションでうなぎお重が用意されています。

参加申込
①旅行代金　一万円(一人)
②申込〆切　10月15日(日)
③申込・問合せ　順慶寺

おしらせ

●墓地ブロック塀の工事について
本年10月初旬より一週間、順慶寺西側墓地ブロック塀の一部をアルミフェンスに取り替える工事をします。墓地参詣者の皆さまには通路の通行等でご不便をおかけします。期間中、西側墓地の北側入口付近には、廃材排出用の軽トラックが停車する予定。

●本山報恩講団参について
本年も11月21日に本山・東本願寺の報恩講への団体参拝が、岡崎教区二十一組主催でバス二台ので実施されます。参加費は一万円。申込〆記は、10月20日。申込は代金を添えて順慶寺まで。

●寺報郵送料について
寺報郵送料の更新は、来年5月の護寺会費の集金時に移動いたします。ご了承ください。

●10月からお取越をはじめます
10月から各地お取越を始めます。各地の皆さんには事前にハガキで案内を出す予定です。

じゅんこのときめき歳時記

落花生

みなさん、お彼岸が過ぎたらようやく涼しくなり始めましたね。夏が長かったから、夏バテも注意が必要ですね。

秋になると、いつも実家近くの農家の方が落花生を下さるので、家族みんなでほくほく食べていたのを思い出します。下さった落花生は、塩水でゆでると、そのまま渋皮ごと食べられて、本当に美味しくて、食べ始めるとまらなくなるのが玉にきずでした。

お店に年中ある落花生は乾燥ものらしく、本来、落花生の収穫時期は、九月から十一月。落花生の名は、花が地中に落ちて地中にサヤを作ることに由来するとか。実にはタンパク質、ミネラル類やビタミン類（B1、E）、オレイン酸を主とした良質の脂肪などを多く含まれるそうですが、カロリーも多いそうですから、食べ過ぎも禁物です。

落花生
笑って実る　土の中
田口令二